

授業科目	看護倫理	単位	1	時間	15	履修時期	2年次 1学期
設定理由	医療のめざましい進歩によって多大な恩恵がもたらされている一方、看護倫理に関する問題が増加している。日々の医療行為には、いつも倫理的問題が潜んでいると言っても過言ではない。倫理的問題は、医療者が日々のなにげない言動により対象を傷つけてしまう可能性から、高度な医療に伴う問題までさまざまである。種々の看護倫理に関する問題を取りあげ、倫理(正直であること)、マナー(責任と思いやり)をもった対象への対応について学習する。						
学習目標	医療専門職に必要な倫理の基礎知識および看護職者としての役割について学ぶ。 医療専門職に必要な倫理の基礎知識を理解する。 看護の実践・教育・研究における倫理の重要性について理解する。 3) 看護実践における倫理的課題について考える。						
授業内容(講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理とはなにか 2. 専門職としての倫理 3. 保健師助産師看護師法と倫理 4. 倫理問題へのアプローチ 5. 看護研究における倫理 6. 事例検討 7. 臓器移植をめぐる倫理的課題 8. 試験 					担当者(時間) 専任教員(13) 移植コーディネーター(2)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 (医学書院) 系統看護学講座 看護学概論 (医学書院)						
備考							

授業科目	看護理論	単位	1	時間	15	履修時期	2年次1学期
設定理由	看護理論や看護論を学ことで。看護を概念化してとらえる基本的な力を養うこと、また、より普遍的で人間性豊かな自らの看護問を育てるため						
学習目標	看護の見方・考え方の基盤として看護理論全般について学習し、代表的な理論家の理論内容を看護実践へ活用する方法について理解する。						
授業内容(講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論とは 看護理論の分類と変遷 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論家の述べている看護の概念 2. 看護理論家の看護から自身の看護について考える 3. 看護実践における理論活用の意義 中範囲理論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護アセスメントと援助に関する理論 2) 病気・障害・人生の体験を説明する理論 3) 機器・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論 4) 行動変容・行動強化に関する理論 4. 実習での看護実践を中範囲理論により説明する(グループワーク)① 5. 実習での看護実践を中範囲理論により説明する(グループワーク)② 6. 実習での看護実践を中範囲理論により説明する(グループワーク)③ 7. 実習での看護実践を中範囲理論により説明する(グループワーク)④ 8. 看護における理論活用の展望 					担当者(時間)	
						専任教員(15)	
評価	個人レポート、グループワークへの参加度と課題の内容等により評価(詳細は講義で説明)						
テキスト	看護学概論(医学書院) 看護実践に活かす中範囲理論(メヂカルフレンド社)						
備考							

授業科目	検査・処置に伴う援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 1学期・2学期
設定理由	医師が行う診療の介助やそれに伴う対象への援助、及び医師の指示に従って看護師が実施する行為としての技術を学ぶ						
学習目標	患者が安全・安心して検査・治療が受けられるように援助するための方法を理解する						
授業内容（講義ごとの内容）	1. 創傷管理技術 創傷管理の基礎知識 2. 褥瘡予防、創傷管理技術 3. 褥瘡ケア 4. 褥瘡ケア（演習） 5～6. 包帯法（演習） 7～9. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 1) 検査における看護師の役割 2) 検体検査・生体情報のモニタリングの援助の基礎知識と実際 10～12. 診察・検査・処置の介助技術 ※滅菌ガウン着用の介助と清潔区域の作成を含む 13～14. 真空採血管による採血方法の実際（演習） 15. まとめ/試験					担当者（時間） 皮膚・排泄ケア 認定看護師（6） 専任教員（24）	
評価	筆記試験（演習に関する課題レポート・学習姿勢を含めて総合的に判断します）						
テキスト	専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術（医学書院） 看護技術がみえる（メディクメディア）						
備考	解剖生理学、環境を整える援助技術（滅菌物の取り扱い）、活動と休息の援助技術（体位変換）の知識が必要です。復習をして講義に臨んでください。 ※演習に関しては複数講師で対応する						

授業科目	看護研究	単位	1	時間	30	履修時期	2年次 2学期
設定理由	看護研究の意義、研究の倫理、ならびに研究方法論について、実践を通して理解を深めるとともに、物事について深く考えたり調べたりすることで探究心を養い、研究的態度を身につける。また、自らの看護実践を振り返ることで自己の看護観を高める。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と研究方法について理解する 2. 看護研究における文献の活用方法を理解する 3. これまでの学習を通して芽生えた問題意識を研究テーマへと発展させる 4. 受け持ち事例の看護過程の展開について、論文作成、成果発表までの一連の研究のプロセスを体験する 						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の種類と特徴 研究の定義、看護実践と看護研究の関連、 研究疑問と研究デザイン、量的・質的研究のアプローチの違い 2. データ収集（観察法・質問法） 質問紙・変数・尺度の種類と特徴、面接法の種類と特徴 3. 文献検索の方法 文献検討（検索）の目的、文献の種類（一次文献・二次文献）、 文献検索の方法（web検索） 4・5 研究における倫理、研究計画書 研究における倫理的配慮、研究計画書の構成内容 6. ケーススタディの進め方 論文作成・ケーススタディの意義 論文及び抄録の構成内容と書き方 ※卒業論文を用いて説明 7. 論文クリティーク ※課題：卒業論文1題 8～11. ケーススタディ発表に向けてのオリエンテーション・発表準備 11～14. ケーススタディ発表 15. 看護研究まとめ/試験 					担当者（時間）	
評価	<p>筆記試験（50%）</p> <p>ケーススタディへの取り組みおよび論文作成過程とその発表（50%）：複数講師で対応する</p>						
テキスト	<p>系統看護学講座 別巻 看護研究 （医学書院）</p> <p>看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 （照林社）</p>						
備考	ケーススタディの論文作成指導は、老年看護学実習Ⅱの実習担当教員が行う。						

授業科目	看護研究演習	単位	1	時間	30	履修時期	3年次 1学期
設定理由	卒業研究を通して、自己の看護観を見つめる機会とする 論文作成を通して自己の看護的体験を論理的に記述することができる能力を養う						
学習目標	看護を追求していく姿勢を養い、自己の看護観を高める 3年次前期の病棟実習において受け持った事例について看護過程展開実践について論文作成から抄録作成および発表までを行う（卒業論文 ケーススタディ）						
授業内容（講義ごとの内容）	1. 看護研究演習オリエンテーション 2～9. 文献検索、研究計画書作成 論文・抄録作成、 プレゼンテーションの準備、 発表会の準備 10～14. 口演発表、相互評価 発表会の運営 15. 論文修正、完成						担当者（時間）
							専任教員（30）
評価	論文作成への取り組み状況、提出状況、研究論文及び研究発表について、評価表に基づき評価する。						
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院） 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）						
備考	※論文作成に関しては複数講師で対応する						